

開催日時 : 2003 年 7 月 18 日 (金) 13 : 30 ~ 16 : 25

場 所 : 大津プリンスホテル 2 階 コンベンションホール「淡海 5」

参加者数 : 委員 12 名、河川管理者 12 名、一般傍聴者 83 名

1 決定事項

- ・部会終了後の打ち合わせで、8 月 7 日 (木) 17 : 00 ~ 20 : 00 に委員のみの部会検討会を開催することが決定した。

2 審議の概要

委員会、他部会の状況報告

庶務より、資料 1「委員会および各部会の状況 (提言とりまとめ以降)」をもとに、委員会および他部会の活動状況等について報告が行われた。

説明資料 (第 2 稿) の検討について

今後の検討課題および審議の進め方について、資料 2-1「前回部会以降の琵琶湖部会検討班の状況」、資料 2-2「検討班の状況報告」に基づき、各班の検討状況がリーダーより報告された後、各班および部会としての意見とりまとめに関する意見交換が行われた。主な論点は、地域における総合的な連携の枠組み、琵琶湖の水位と周辺河川・地形特性の関係、ダムのメリットとデメリット等。

その他

淡海の川づくり委員会との合同委員会について、淡海の川づくり委員会、琵琶湖部会、滋賀県、国土交通省の四者合同会議で進め方を検討する旨が提案された。

一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者 3 名から、「水位班の検討で、『小規模な洪水についてある程度の許容を』という論点は理解しがたい。中間とりまとめ等における委員会の意見と矛盾するのではないか」「丹生ダムの目的とされた環境改善容量に疑問がある。環境改善は、操作規則の見直しを考えることが本筋」「ダム班の意見素案にいくつか疑問がある。ダム計画を敵視しているのではないか」等の発言があった。また、これらの意見に対し部会長や委員から、「本日の各検討班からの報告については、あくまでも委員からの意見をもとに論点を整理したものであり、部会や委員会全体としての意見ではない」「ダム計画を敵視はしていない」等の意見が出された。

3 今後の予定

部会終了後の打合せにて、以下のことが確認された。

- ・7/31 までに各委員は、論点の再整理 (本日の各班報告に対する賛否を含む)、新しい論点の検討、第 2 稿の各自の担当箇所についての意見を提出する。中村リーダーと各班リーダーは次回琵琶湖部会検討会 (8/7) までに寄せられた意見を整理する。
- ・次回琵琶湖部会検討会 (8/7) では寄せられた意見を元に、各班間の整合性、提言・他部会との整合性等を検討し、部会としての意見集約の方向性を提示する。

この結果を受け、中村リーダーが琵琶湖部会としての意見 (案) を取りまとめ、次回琵琶湖部会 (8/25) で検討し、9/5 の第 24 回委員会に提出する琵琶湖部会としての意見をまとめる。

以上

このお知らせは委員の皆様にご会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。審議の主な内容については「結果概要」、詳細については「議事録」を参照下さい。